

## 東京女子医大 逮捕の医師

# 看護記録改ざん強要

## 上司にトラブル報告

東京女子医大病院(東京都新宿区)で昨年三月、心臓手術を受けた小学六年生の平柳明香さん(当時十一歳)が死亡した医療過誤事件で、証拠隠滅容疑で逮捕された同病院講師の医師瀬尾和宏容疑者46は、看護記録の改ざんに抵抗した看護師長(54)の訴えを無視して隠滅を命じていたことが、警視庁捜査一課と牛込署の調べでわかった。また、瀬尾容疑者が手術直後、上司にあたる主任教授(当時)に手術中のトラブルを報告していたことも関係者の証言で判明。同課は、組織的な隠ぺい工作の可能性もあるとみて特捜本部を設置した。(関連記事39面)

調べによると、昨年三月、失致死容疑で逮捕)が人工心臓手術を受けた平柳明香さんの心臓手術、心肺装置の操作を誤り、血がうまく抜き取れない「脱血」を脳循環不全で死亡させた一樹容疑者(38)(業務上過失)が、手術を統括する

立場の瀬尾容疑者は同日、看護師長に対し、集中治療室での看護記録の一部を書き換えよう指示し、証拠を隠滅した疑い。この際、看護師長は「そんなことしたら大変なことになります」と抵抗したが、瀬尾容疑者は「おれが言っているんだから気にするな」などと改ざんを強要、自らも書き換えに加わった

という。当初の看護記録では「七ミに散大した」と記載されていた腫孔径の数値が「四ミ」に改ざんされていた。瀬尾容疑者は、腫孔の数値を小さくすることで、明香さんが脳障害が原因で死亡したことを隠ぺいしようとしたとみられる。瀬尾容疑者はさらに同日、人工心肺装置の操作ミス隠すため、臨床工学技士(31)にも装置の記録のうち、脳障害発生時に行った低体温療法(記載を、丸ごと差し替えるように指示した疑いが持たれている。同課では、証拠隠滅にかかわった看護師長と、臨床工学技士についても書類送検する方針。一方、関係者の話による

と、瀬尾容疑者は、手術当日の夜、回診に訪れた当時の主任教授に対し、「手術中に『脱血不良』が起きた」と、このトラブルを報告していた。主任教授は脳障害の有無を確認するため、腫孔などを調べた上で「低体温療法を行っているか」と瀬尾容疑者に尋ねた。低体温療法は脳障害の進行を抑えるため、体を冷やす療法。瀬尾容疑者は「行っています。家族には心不全で低体温療法を行っている」と説明しています」と、家族に対し、脳への影響は伏せていることも報告したという。主任教授は今年初め、読売新聞社の取材に対し「捜査中なのでコメントできない」と話していた。

女子医大小児心臓手術事故

改竄強要、特捜設置

2002年6月29日 読賣新聞